

# 令和元年度 県政アンケート調査結果の概要について

令和 2 年 1 月  
企画振興部企画調整課

【調査目的】 県民の生活と県政に対する県民のニーズ、意識などを把握し、今後の施策の企画立案並びに執行上の基礎資料とする。

【調査項目】	(1) 「健康」について	(問 1～ 7)
	(2) 「防災」について	(問 8～13)
	(3) 「キャッシュレス決済」について	(問14～19)
	(4) 「県内の家族旅行」について	(問20～22)
	(5) 「美術館や博物館」について	(問23～24)
	(6) 「環境問題」について	(問25～32)
	(7) 「県の情報発信」について	(問33～35)

【調査対象】 県内在住の満18歳以上の男女個人

【標本数】 2,500

【調査方法】 郵送によるアンケート調査

【調査期間】 令和元年8月下旬～9月上旬

【回収結果】 回収数1,504件 (回収率60.2%)

【調査結果】 (主な調査項目)

※1つの設問において2つ以上の回答を求めたものは、百分比の合計が100%を超える。

## ○ 「健康」について

### 【 「かかりつけ医 (診療所・医院) がある」 が5割以上 】

▶ 病気時に受診する医療機関について、回答割合が高い項目

第1位 「診療所・医院に行くことが多い」 (47.6%)

第2位 「地元の病院に行くことが多い」 (26.0%)

第3位 「医療機関にはほとんど行かない」 (18.2%)

▶ 健康維持のために必要と感じていることについて、回答割合が高い項目

第1位 「年齢に応じた適度な運動」 (65.5%)

第2位 「健 (検) 診受診による早期発見・早期治療」 (64.6%)

第3位 「十分な休養とこころの健康」 (55.8%)

## ○「防災」について

**【近年の頻発する災害を踏まえ、自身の防災に関する意識は高まった（「非常に高まった」、「ある程度高まった」）が7割以上**

**一方、家庭における防災対策については「必要性は認識しているが具体的な取組みを実施していない」が6割以上】**

▶ 避難勧告等が発令された場合、行動することについて、回答割合が高い項目

第1位「TV等で被災状況の収集」（63.2%）

第2位「外出中の家族へ連絡」（50.2%）

第3位「避難準備の開始」（42.6%）

## ○「キャッシュレス決済」について

**【キャッシュレス決済を「利用している」は47.5%、「利用していない」は52.1%】**

▶ キャッシュレス決済を利用している理由について、回答割合が高い項目

第1位「ポイント還元や割引サービスがあるから」（76.6%）

第2位「レジの会計がスムーズだから」（59.1%）

第3位「（クレジットカードの場合）後払いできるから」（34.7%）

▶ キャッシュレス決済を日頃利用している場所は、「スーパーマーケット」が最も多く、次いで「コンビニエンスストア」、「ドラッグストア」の順となっている。また、利用出来たら便利と思う場所は、「病院・歯科・クリニック」が最も多く、次いで「美・理容室」、「公共施設の利用料」の順となっている。

▶ キャッシュレス決済を利用していない、または利用したくない理由について、回答割合が高い項目

第1位「現金払いで不便を感じていないから」（86.1%）

第2位「情報漏洩やセキュリティ面で不安があるから」（45.8%）

第3位「キャッシュレス決済のやり方がわからないから」（28.3%）

## ○「県内の家族旅行」について

**【県内の家族旅行（宿泊及び日帰り）に「行った」が41.2%、「行かなかった」が57.5%】**

▶ 宿泊を伴う家族旅行は「1回」が25.8%、日帰りの家族旅行は「5回以上」が25.7%で最も多い。

▶ それぞれ行った地方については、宿泊、日帰りともに「庄内地方」が最も多く、次いで「村山地方」、「置賜地方」、「最上地方」の順となっている。

▶ 県内の家族旅行を増やすために必要だと思うことについて、回答割合が高い項目

第1位「仕事で休暇が取れないため、休暇を取りやすい職場の環境づくりをすること」（36.5%）

第2位「各種割引特典を拡充させること」（34.7%）

第3位「バスや電車などの公共交通機関を充実させること」（24.1%）

## ○「美術館や博物館」について

### 【 県内の美術館や博物館に「行った」が20.8%、「行かなかった」が76.8% 】

- ▶ 美術館や博物館にいった回数は「1回」が52.2%で最も多い。
- ▶ それぞれ行った地方については、「村山地方」が最も多く、次いで「庄内地方」、「置賜地方」、「最上地方」の順となっている。
- ▶ 美術館や博物館の訪問回数を増やすために必要だと思うことについて、回答割合が高い項目

第1位「美術館や博物館の展示物や企画を充実させること」(45.9%)

第2位「美術館や博物館を知るための各種広報活動の充実」(33.3%)

第3位「美術館や博物館の入館料を下げること」(26.3%)

## ○「環境問題」について

### 【 日頃からマイバッグを持参し、レジ袋は使用しないが4割、有料の場合マイバッグを持参するが無料の場合はレジ袋を使用するが4割 】

- ▶ 有料でもレジ袋を使う理由のうち、「マイバッグを持参するのが面倒」、「マイバッグを持っていない」を合わせると、男性は42.2%、女性は11.5%。
- ▶ 食品ロスを削減するために、日頃から行っていることについて、回答割合が高い項目

第1位「直ちに使い切れない食材は、冷凍などの傷みにくい方法で保存する」(57.2%)

第2位「食べ残しを極力減らしたり、買った食材は使い切るようにしている」(57.0%)

第3位「食材の冷蔵庫等での保管量を把握したうえで買い物をしている」(48.3%)

- ▶ 気候変動の影響への対応として、県が重点的に取り組むべきことについて、回答割合が高い項目

第1位「暮らしの安全・都市生活分野（大雨や大雪などに備えた交通インフラの整備など）」(61.9%)

第2位「自然災害・沿岸域分野（大雨による洪水や沿岸域での台風・高潮による浸水への対応など）」(51.7%)

第3位「農林水産分野（高温耐性品種の開発、海水温上昇による水産資源への影響に対する対応など）」(34.1%)

- ▶ 「やまがた森林(モリ)ノミクス」という取組みについて、「知っている」が24.2%、「知らない」が72.3%。

- ▶ 今後、「やまがた森林(モリ)ノミクス」を進めていくために効果的な取組みについて、回答割合が高い項目

第1位「メディアによるPR（TV、ラジオ、インターネット、ポスター広告 等）」(73.2%)

第2位「学校等の森林環境学習の充実」(44.7%)

第3位「イベントの実施（セミナー、サミット、展示会 等）」(35.8%)

○「県の情報発信」について

**【 情報を得るために日頃利用している情報媒体（メディア）は、週5回以上は、「テレビ」が7割、「新聞」が5割、「インターネット（ホームページ、ブログ等）が3割 】**

▶県が行っている取組みについて日頃何から知ることが多いかについて、回答割合が高い項目

第1位 「テレビ・ラジオのニュースや番組」 (66.8%)

第2位 「山形県広報誌「県民のあゆみ」」 (57.1%)

第3位 「市町村が発行する広報誌」 (50.6%)

▶県が利用している情報媒体の中で、今後、更に「充実してほしい」、「充実すべき」ものについて、回答割合が高い項目

第1位 「山形県広報誌「県民のあゆみ」」 (47.6%)

第2位 「県政広報テレビ番組「やまがたサンデー5」、「いき☆いき やまがた」」 (31.7%)

第3位 「県が発行するパンフレットやポスター、各種印刷物など」 (31.5%)